

平成19年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	四日市ドーム
所在地	四日市市大字羽津甲5169番地
指定管理者	<p>名称 トーエネックグループ</p> <p>代表者 株式会社トーエネック 取締役社長 野田 泰弘</p> <p>住所 名古屋市中区栄1丁目20番31号</p> <p>構成団体 株式会社トーエネック 新生ビルテクノ株式会社 シンコースポーツ株式会社</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒヤリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	<p>教育委員会スポーツ課</p> <p>TEL：059-354-8428</p> <p>E-mail：sports@city.yokkaichi.mie.jp</p>

■ モニタリングの総合コメント

当初計画の開館予定日数を上回ったことなどにより、ドーム利用者が、対前年比23,000人余りの増加となった。このことは、利用者の利便性の向上や収益面からも大いに評価する。一方、事業面では、指定管理者のグループの専門企業によりスポーツ教室が開催されましたが、女性層を中心とした教室の内容にとどまり、参加者数も予定人員を大きく下回るなどの結果で、やや物足りなさを感じた。清掃や設備保守面では、空調設備保守など業務の一部再委託を効果的に行った結果、特に大きなトラブルもなく良好な管理と評価している。ただ、1年目の運営のため、一部の従業員が設備などのセッティングに手間取るとの利用者からの意見もあり、今後、従業員教育の徹底を図り、来場者へのサービス面の向上を求めたい。最後に事業の収支面では、概ね年間計画を達成した中、黒字となり初年度の管理運営は、概ね良好と判断する。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

市民から信頼を得られる運営の基本は、従業員の質の向上であるので電話の応対、受付事務などの接遇や設備関係をより熟知するため従業員研修の充実に向け指導したい。

また、指定管理者化の意義でもある民間感覚に立脚した運営、例えば料金設定を下げ利用者の増加を図るなど例規の範囲内の新たな提案をしていただき、市と協議のうえ具現化を図っていききたい。

更に、スポーツ教室の企画運営では、指定管理者グループに専門企業が参画しているので、その蓄積されたノウハウをもとに、四日市市民のニーズをリサーチし、またドームの施設を生かしたより充実したスポーツ教室となるよう運営の指導をしていきたい。

基本的な考え方（施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮）

合目的性・公平性・効果性

当該施設は、市民の健康づくり、体力づくり及び競技力の向上の場並びに多様なイベントの場を提供するため設置されたもので、その利用状況はアマチュアスポーツ、式典講演会、展示・見本市など多様にわたり、老人から子どもまで約182,000人余りの利用人数で、また、アリーナでは99.7%の利用率で、設置の目的を充分果たしていると考えている。

業務内容

機能性・独創性（事業への具体的な取組み方）

自主事業のスポーツ教室では、年間計画に予定した教室が、内容を一部変更したものの適性に実施されました。しかしながら、参加人員の面では、大幅な落ち込みとなりこの原因を考察する必要がある。今後の事業展開として、幅広い市民層を対象とした教室の企画や募集に当たっては市民への広報活動の充実が肝要であると考えます。

責任性・実行性（施設の運営体制や組織）

指定管理にあたり当指定管理グループは、それぞれの得意分野の会社の集合体であるため責任体制を明確にし、運営をマネジメントする必要がある。

明瞭性・規律性（適正な事務や経理）

当該施設の管理運営に当たっては、四日市ドーム条例などの規定により適切に実施されていました。また、経理面では、多額の収入金を取り扱うため、大型の金庫による保管など事故防止に努めていた。また、支払事務や剰余金などグループの協定書により適切に処理がなされていた。

安全性（安全管理、緊急時等の対応）

緊急事態発生の対応マニュアルや緊急連絡網が整備されていた。また、AEDを適切に使用するため、従業員に普通救命講習会を受講させるなどの措置が取られていた。

社会性（環境等への配慮）

ごみ処理では、分別収集がなされ産業廃棄物の処理も適正に処理がされていた。

事業収支

経済性

歳入は、予算計上した額が確保された。一方、歳出は業務の一部再委託を効果的に行い、人件費の抑制にも寄与した。また、多額を占める光熱水費は、トイレの雨水利用などの設備が施されており経費の削減効果につながった。経済性については、**結果的に黒字となり概ね良好と判断した。**

団体の経営状態

経営の健全性

経営の健全性については、特に問題は**ありません。**

施設概要総括表

1. 施設の概要

平成19年度

施設名	四日市ドーム		所管課:スポーツ課
所在地	四日市市大字羽津甲5169		設置年月:平成9年
設置目的	市民の健康づくり、体力づくり及び競技力の向上を図る場を提供するため設置		
設置の根拠 (法令、条例等)	四日市ドーム条例		
施設の概要		敷地面積 (㎡)	—
		延床面積 (㎡)	23,134㎡
	設備の概要	鉄筋コンクリート造 地下1階、地上3階 建築面積 約21,072㎡ 延床面積 約23,143㎡ アリーナ 砂入り人工芝 天井高 (最高部35.5m 最低部16.5m) 面積9,707㎡ (124.45m×78.00m) 観客席 4,704席 (補助椅子使用約10,000人収容可能) 諸室等 大会議室 (60人)、小会議室 (30人)、控室 1・2 (各24人) 準備室 (100人)、練習室 (189㎡)、幼児室 (42㎡)、ロッカー室 (4室) シャワー室 (4室) 映像装置 幅7.36m×高4.80m 駐車場 50台 (別途3,500台)	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開 ・スポーツ教室 		

2. 運営状況

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)
開館日数	307日	315日
開館時間	9:00~21:00	9:00~21:00

3. 利用実績

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)
延べ利用者数	個人利用者数	5,551人
	団体利用者数	176,460人
	事業参加者数	4,500人
事業参加者実績	スポーツ教室 4,500人	629人
稼働率	平均	99.7%

4. 事業収支

(単位：円)

項目		実施計画	実施内容 (事業報告書)
利用料金収入	使用料	37,262,000	38,049,590
指定管理料		62,401,000	62,401,000
自主事業収入	スポーツ教室	900,000	383,000
収入計		100,563,000	100,833,590
人件費		20,000,000	21,200,000
消耗品費		5,662,000	1,696,752
燃料費		485,000	364,084
印刷製本費		276,000	0
光熱水費		19,333,000	20,994,336
修繕料		3,219,000	2,264,199
通信運搬費		549,000	484,949
広告料		275,000	150,000
手数料		111,000	55,459
委託料		47,716,000	47,716,000
使用料及び賃借料		537,000	258,300
自主事業費		900,000	383,000
備品購入費		1,500,000	412,333
公租公課		0	100,000
保険料		0	784,840
支出計		100,563,000	96,864,252
収支		0	3,969,338